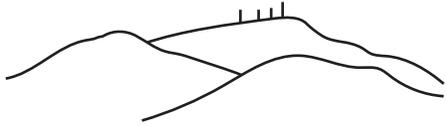


Youth Manna

2020/3/30 - 4/5



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/3/30(月)

詩篇 78:40-72

78 篇はイスラエルの民が神様に信頼し、神様のみわざを忘れず、その命令を守るために書かれました(7)。これは私たちにとっても大事なことだよね!

今日の箇所では出エジプトからダビデ王までの民の歩みが記されている。その中でイスラエルの民は何度も神様に逆らってきた。彼らに対する神様の心はどうだっただろうか。40~43 を読んで思い巡らそう。

- 自分の歩みが神様の目にどう映っているか考えたことはあるかな?
 - 神様が私たちのことで心動かされる方だということを知って、君はどう思う?
- 今日一日、なるべくたくさん神様のことに思いを向けてみよう! デボーション以外でも聖書を読むことにチャレンジしたり、賛美したりしよう!

2020/3/31(火)

詩篇 79 篇

この詩篇は、ユダが神様から離れた罪の結果として、バビロンの攻撃を受けて国がめちゃくちゃになった時に書かれた詩です。

作者は自分達の国が悪いことを分かりつつも、自分の気持ちの辛さ、苦しさを素直に訴えました。それは、ただただ神様の憐みに信頼していたから出来たことでした。

自分が苦しい時に、祈れるかな?? 神様に腹を立ててたり、後ろめたくて祈らないこともあるかもしれないね。でも神様は私達が素直にいのることを待っています。今日神様が愛と憐みの方であることを思い出して何でも祈ろう!!

2020/4/1(水)

詩篇 80 篇

本篇には、異国の軍隊に自分たちの土地を踏みにじられている状況が背景にあると思われる。3,7,19 節に、同じような祈りが3度繰り返される。「私たちを元に戻し」とは豊かなカナンへの地に入り(8)領地を広げた(10-11)頃の繁栄していた時代のよう、という意味であろう(ここでの「ぶどうの木」はイスラエルを表しているよ)。「御顔を照り輝かせ」とは神が祝福を与えられるということを表している。そして詩人は、「そうすれば私たちは救われます」と繰り返し、主に対する信頼を告白する。

神様は全てが可能なお方であり、私たちを祝福したいと願っておられるよ。神様の全能と愛に信頼して祈ろう!

2020/4/2(木)

詩篇 81 篇

イスラエルは、エジプトによる長い苦しみの中にいたのを神様から救ってもらい、旅の途上でもあらゆる危険から守られ、時間はかかったが、無事約束の地カナンへ入れていただいた。それなのにイスラエルは主に繰り返し背いた。10.11 節で「あなたの口を大きく開けよ。わたしがそれを満たそう」と言われた主の声を聞かず、服従しなかったことが分かる。味わった痛みはその結果である。

神様に聞いたり頼ったりせず、自分の考えだけで自分の道を歩んでしまっているところはないだろうか。神様に聞き従うことは、自分にとってどんなことかを考えよう。1 節で歌われているように、神様こと私たちの力ですと告白して今日を歩もう!!

2020/4/3(金)

今日はブルックの誕生日

伝道者 1 章

今日から2週間、伝道者の書を読んでいきます。1 章だけを読むと著者である伝道者は完全に絶望しているようにも見えるので全体像を確認していこう!

●伝道者の書のテーマ
テーマは【神様から離れたまま生きることのむなしさ】です。伝道者の書には「日の下」という言葉が29 回も出てきます。1 章だと3 節9 節14 節にあるね。人間の生活が地上的なもの(日の下)だけで神様を抜きにして考えるならば、どれだけむなししいかが繰り返し語られます。

●伝道者の書の結論
1 章2,3 節と一緒に結論をみてみると上のテーマがよくわかると思うので、12 章13,14 節を読もう。伝道者は確かに神様をみて歩もうとしていることがわかるね。
●考えよう
生活していてむなしくなる瞬間があるかな? その時に神様はどこにいるだろう。

2020/4/4(土)

伝道者 2 章

伝道者の書を書いた人は、何のために苦勞をするのか考えた。自分が楽しみ、満足のためかな? その苦勞の結果、成果が喜びになることもあるよね。

だけど、自分だけでがんばったり、楽しんだりしたこともいつかは終わりが来る。そのむなしさもここでは記されているね。それでも、このすべては神様の御手の中にあることに伝道者の筆者は気づいた。

神様と一緒に歩み、神様の御手の中に自分や世界があることを覚えよう! その中で、生活する、遊ぶ、頑張ることの意味や喜びが神様の視点で分かるようになる。神様が見てるものを受け取ろう!

2020/4/5(日)

伝道者 3 章

伝道者の書では、神様がすべての時を定めておられること、その中で人がどのように生きるのかを語っています。ここでは生まれてから死ぬまで、人生のすべての営みに時があることが書かれています。

私たちの毎日に起きる出来事は、神様が定めておられることを知らなければ、虚しかったりただ悲しいだけのこともあるかもしれません。しかし、神様がすべての時を定めておられると知るならば、私たちが毎日神様と繋がって生きるのならば、神様のご計画された私たちの人生は「すべて時にかなって美しい」ことを確信することができます。

神様の前に静まり、今日のみことばを心の中で思い巡らそう。神様、私の人生のすべてがあなたの御手の中にあることを信じ、感謝します。あなたのなさることが、すべて時にかなって美しいことを、毎日の歩みを通して受け取ることが出来ますように。